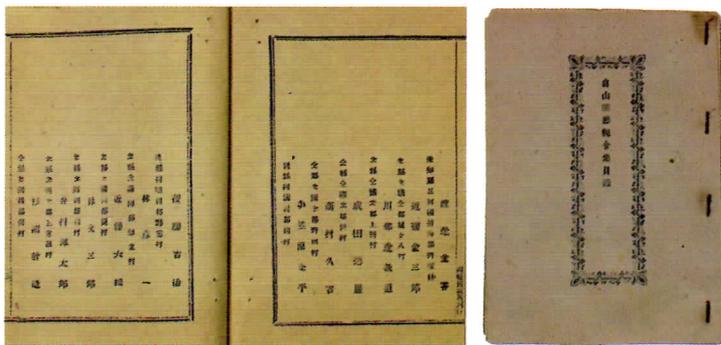


新しくわかった 市域の自由民権運動関係者 小笠原金平

岡田洋司

筆者も執筆に加わっていた『新編安城市史3 通史編近代』（二〇〇八年）が刊行されてから十数年が過ぎ、新しく書き加えたいことも出てきました。碧海郡一帯は、重原藩大参事だった内藤魯一を中心にして自由民権運動が盛んな地域でした。『市史』でも、市域の自由民権運動関係者として城ヶ入村城泉寺の僧侶川那辺義道、福釜村の江川甚太郎、さらに和泉村出身の渋谷良平をあげておきました。ところがもう一人自由民権運動と接点を持つ人物がいました。二本木の小笠原金平という人物です。



自由党懇親会集員録

二本木町郷土史資料編編集委員会『二本木郷土史 資料編』（同委員会、一九八五年）によれば、小笠原金平は、安政六年（一八五八）の生まれ。父親の小笠原藤五郎は重原藩士でした。金平は重原藩の藩校養正館で漢学を学び、名古屋や大阪でも勉学を重ね、明治十三年（一八八〇）に小学校の教員となりました。その翌年、明治十四年（一八八一）六月十八日に岡崎で開かれた「愛知県尾三両国自由党懇談会」には、内藤魯

一をはじめ県内の六八人の自由民権運動賛同者が集まりました。その名簿（『自由党懇親会集員録』一八八一年、知立市歴史民俗資料館所蔵）のなかに小笠原金平の名があるのです。居住地は「野田村」となっています。野田村は、基本的には刈谷市域です。ところが、この場合の野田村とは、野田村の出郷である二本木のことでした。したがって小笠原は市域の自由民権運動関係者ということになります。それを指摘したのは市内の中学生内藤今日子さんです。内藤さんは、昨年十月に行われた「第16回安祥文化のさとまつり」のなかの「歴史のひろば展」で展示された「三河の自由民権運動」という研究で、そのことを発表しました。小笠原のことを見逃していたのは、『新編安城市史』の執筆者として汗顔の至りというほかありませんが、新しい事実が明らかになったことは喜ばしいことです。

とはいえ、小笠原とその後の自由民権運動のかかわりはよくわかりません。『二本木郷土史資料編』には小笠原が郡内各地の小学校教員（訓導・校長）をつとめたとありますが、自由民権運動との関係は書かれていません。今後の課題です。とくに若い研究者の皆さんがそのことに取り組むことを期待しています。

（新編西尾市史編集委員・元新編安城市史調査執筆委員）

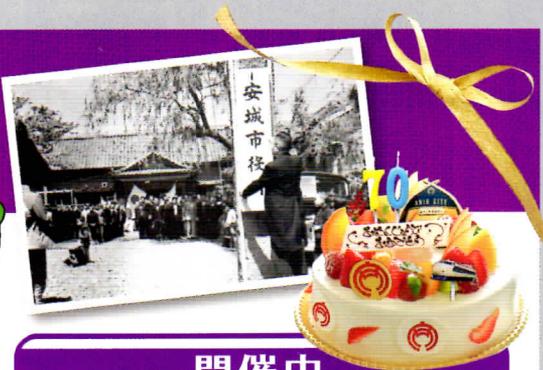
安城市70周年生誕祭

5月5日(木・祝) 13:30~



安城商店街アイドル「看板娘。」がお祝いに駆けつけてくれるよ!

サルビー & きーぼ 登場



開催中

安城市制施行70周年記念企画展
安城太郎 満70歳
-安城市のあゆみ- 観覧無料



3G ダブルカホンス HIDE和太鼓school「續迦〜SANGA〜」